

中国の S-400 地対空ミサイル

漢和防務評論 20181210(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国の海空軍は、国際ルールに非常識とと思っていましたが、無理もない、他国とまともに戦った歴史、経験がないからでしょう。
韓国海軍も同じではないでしょうか。
子供に武器を持たせるのと同じで危険極まりないと思う。
今日の記事で、漢和は、最近中国に導入された S-400 地対空ミサイルは、主として台湾海峡方面に配備される。
射程が長いので、台湾本島西岸の空軍基地にとって脅威であると述べています。

KDR 東京、モスクワ特電：

今年ロシアは、中国に対して最初の S-400 地対空ミサイルの発射機とミサイルの一部を提供した。KDR は 4 年前、ロシアの権威筋の話として、”中国は射程 250KM のミサイルを含む多種類のミサイルを購入した。このミサイルは優先的に提供され、その他のシリーズのミサイルは生産が完了した後に提供される”と報道した。伝統的に、中国が一度に購入するのは、S-300PMU/PMU-1/PMU-2 が 4 個大隊以上であり、各大隊は 8 個の発射機と 64 発のミサイルを保有する。台湾海峡危機の時は、ミサイルの数も増え、価格も上昇した。通常、優先的に配備されるのは北京、上海及び福建省の前線である。当初は数が足りなかったので、1 個大隊の発射機数は 4 機のみであった。

したがって今回の S-400 は遅かれ早かれ福建省の前線に配備され、台湾に対する空軍力が倍加される。なぜなら中国空軍の”地を以て空を制する”戦役思想は、”敵機は飛行場で撃破する”との考えに立脚しているからである。すなわち台湾軍の戦闘機が離陸した直後に、または飛行場に近い空域で撃墜する、という意味である。

現在福建省に配備されている S-300 ミサイルは、射程 200KM の S-300PMU に換装されるようだ。S-400 との最大の相違点は射程、速度、一体化した指揮系統である。S-400 のレーダー、火器管制システムは S-300 シリーズを指揮することができる。

S-400 は弾道ミサイル迎撃能力がある。迎撃距離は 5 乃至 60KM (S-300PMU-2 は 5 乃至 40KM)、迎撃高度 2 乃至 27KM (同 2 乃至 25KM)、飛行速度 4800M/秒 (同 2800M/秒) の弾道ミサイルを迎撃することができる。また同時に 36 個の空中目標 (同 6 個) を ENGAGE し、同時に 72 発 (同 12 発) のミサイルを誘導し攻撃を実施することができる。

これは、最初に実施される台湾軍の大戦闘機群攻撃にとっては重大な脅威となる。S-400 の照射レーダーの探知距離は 600KM に達する。福建省の前線基地に

展開した S-400 の照射レーダーは台湾全土をカバーする。

KDR は中国が最初の S-300PMU-2 を受領した後、上海に配備された時期を最初に報道した。それが出来た理由は、S-300PMU-2 が使用するのはロシア本国で生産された発射車であり、発射機と発射管制車との距離が PMU-1 に比べて長く、識別が容易だったからである。S-400 と S-300PMU-2 は同じ発射車を使用するので、衛星写真から両者を識別するのは困難である。しかし陣地の構造、台湾本土からの距離、地理的位置から判断すると、配備上の手がかりが発見できる可能性がある。通常の場合では、S-400 は S-300 に換わるだけである。陣地も同じである。北から南を見ていくと、福建省水門飛行場の S-300 陣地は 2004 年に建設された比較的新しい部署である。距離は台北からちょうど 250KM。この飛行場は特に重視されており、24 個の強化型格納庫が建設された。素晴らしい空軍施設であり、現在 PMU-2 が配備されている。台湾からの距離から見ると、この地に S-400 が配備される可能性が最も高い。この地の S-400 は台湾軍 F-16 の浙江省に対する攻撃を阻止することができる。上海防衛の障壁として浙江省の防空体制は明らかに強化されている。将来、射程 380KM のミサイルが導入された後も、さらにこの地に S-400 が配備される可能性もある。

2 番目は龍田飛行場である。現在 PMU-2 が配備されている。ここは最も早い時期に S-300 が配備された。2009 年から 8 両の発射車が配備された。陣地は緑色に偽装されている。距離は、花蓮から 169KM であり、距離的には現在の PMU-2 で十分である。台湾本土を広範囲にカバーしようとするのは、この基地だけではない。

泉州のも最も早い時期に S-300 基地が建設された。2007 年以前は、PMU/PMU-1 シリーズが配備されていた。現在は PMU-2 が配備され、発射機は 8 個である。IDF 戦闘機が配備されている台中の清泉崗基地までの距離は 202KM である。したがって中国空軍の S-300 配備場所は、安易に決められたのではなく精密に計算され、各発射基地は、それぞれ指定された台湾空軍飛行場に対応することになっている。その他の HQ-12、HQ-64 は、本土防空用であり、LD-2000/3000 弾砲結合システムを採用し、3 層の防空体系を形成している。S-300 の各陣地間の距離は最短で 68KM、最長で 170KM である。このように防空、火器管制レーダーは台湾海峡全体を扇の形にカバーしている。厦門にも 2 個の S-300 シリーズ陣地が配備されている。そのうちの 1 個は PMU-1 と PMU-2 の混成であるかもしれない。発射機は 8 個で、1 号陣地 (KDR が命名) は嘉義基地から 257KM である。したがって KDR は、S-400 が最初に配備される可能性が最も高いのは、厦門基地であると考えている。地理的位置は極めて重要である。そのほか福建省の経済、政治の中心でもある。2 号陣地はうまく出来ている。緑化偽装され、配備されているのは PMU-1 であり、台南からの距離は 291KM である。中国空軍は、まもなく射程 380KM の S-400 迎撃弾を獲得する。今後厦門は、最優先で強化される防空ミサイル陣地になる可能性が極めて高い。

汕頭基地の今後の動向には十分注意する必要がある。現在は HQ-12 が配備され、台南基地からの距離は 378KM である。広東に進入する入り口として護りをかためるため、航空兵第 9 旅団の J-10 が配備されている。今後新たに地对空ミサイル陣地が建設されるであろうか？

このように見てくると、S-400が台湾海峡前面に配備されると、台湾西岸飛行場に対する直接的脅威はますます増加する。早期型のS-300PMUミサイルの指揮管制システムに比べ、S-400のレーダー、戦術データ管理はデジタル化されている。ここがS-300との根本的相違点である。対電子妨害能力も大幅に強化されている。

このため、台湾軍は、改修型電子妨害ポッドの獲得及び現有の同種機器のグレードアップを求めている。これらの機器はF-16Vに搭載する。

(盧徳允先生は個人の立場で本記事作成に貢献されました)

以上